

# 南関東防衛

平成26年  
秋号

平成26年秋号 年4回発行 第5号



特集

○ 防衛白書

○ 災害に備える





8月5日の閣議において、小野寺前防衛大臣は平成26年版防衛白書を報告し、了承されました。  
防衛白書は、わが国の防衛政策への理解を深めていただくために毎年刊行しているものであり、今年度の白書は、刊行40回目となる白書となります。  
南関東防衛局では防衛白書の内容について管内の自治体に対して説明を行っています。今回は、平成26年版防衛白書について紙上で紹介します。

平成26年版防衛白書の特徴

防衛白書は、前回の刊行から概ね1年間を主な対象として、その間に発生した事象や取りまとめられた政策事項などを中心に記述しています。

平成26年版防衛白書は、  
①いわゆるグレーゾーン事態の増加の傾向や北朝鮮によるミサイル発射、中国による我が国周辺海域での活動の急速な拡大・活発化など、一層厳しさを増すわが国を取り巻く安全保障環境、  
②安全保障法制に係る閣議決定、国家安全保障戦略や新防衛大綱といった、新たな安全保障・防衛政策、  
③国際協調主義に基づく積極的平和主義の観点から、我が国の安全及び地域・国際社会の平和と安定を維持するため、防衛省・自衛隊が行っている様々な取組

これらを中心により多くの方々に分かり易くお伝えできるようにコラムや図表を充実させて作成しています。

また、今回、防衛白書が刊行40回の節目を迎えることから、巻頭に、第1回防衛白書を刊行された中曽根元防衛庁長官によるご寄稿を掲載しています。

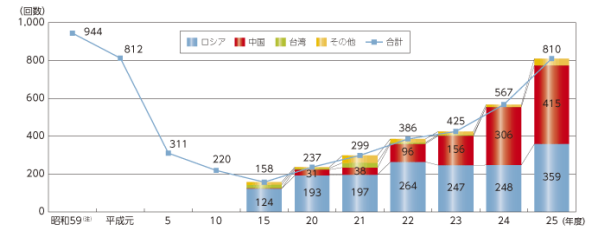


避難民保護区域の排水溝整備を実施する隊員(南スーダン)

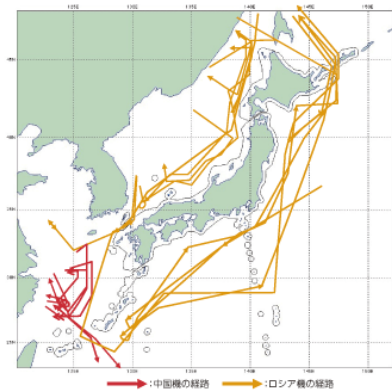


大雪にともなう災害派遣活動に従事する陸自隊員(山梨県)

図表Ⅲ-1-1-3 冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳



図表Ⅲ-1-1-4 緊急発進の対象となったロシア機および中国機の飛行パターン例



最近のわが国周辺の安全保障関連事象(防衛白書第I部より)



上図は平成26年版防衛白書から抜粋したものです。防衛白書は防衛省ホームページからどなたでも閲覧可能です。是非下記URLにアクセス下さい。  
<http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/>

平成26年版防衛白書の構成

I部 わが国を取り巻く安全保障環境

概観

- 第1章 諸外国の防衛政策など
- 第2章 国際社会の課題

II部 わが国の安全保障・防衛政策

- 第1章 わが国の安全保障と防衛の基本的考え方
- 第2章 わが国の安全保障と防衛を担う組織
- 第3章 国家安全保障戦略
- 第4章 新たな防衛計画の大綱
- 第5章 統合機動防衛力の構築に向けて

III部 わが国の防衛のための取組

- 第1章 国民の生命・財産と領土・領海・領空  
を守り抜くための取組
- 第2章 日米同盟の強化
- 第3章 安全保障協力の積極的な推進

IV部 防衛力の能力発揮のための基盤

- 第1章 防衛装備移転三原則などの防衛装備品に  
関する諸施策
- 第2章 国民と防衛省・自衛隊

平成25年版白書からの変更事項

平成25年版白書は、3部構成としておりましたが、平成26年版については、4部構成とし、新防衛大綱で重視されている「防衛力の能力発揮のための基盤」を新たに部として新設して記述しています。

第一部においては、北朝鮮による弾道ミサイル発射、力による現状変更の試みを含む周辺海域における活動を拡大・活発化させている中国の動向などといった、わが国を取り巻く安全保障環境、第二部においては、安全保障法制の整備についての閣議決定、国家安全保障戦略と防衛大綱によって定められたわが国の安全保

障や防衛力に係る考え方、自衛隊の新たな体制、新中期防における具体的な取組など、第三部においては、図表やコラムを充実させながら、伊豆大島における災害派遣やフィリピンにおける国際緊急援助活動といった国内外の自衛隊の活動や日米同盟の強化に係る施策、第四部においては、防衛装備移転三原則、防衛生産・技術基盤戦略、女性自衛官の活用といったわが国の防衛力を下支える基盤に係わる施策の方向性について記述しています。

平成26年版防衛白書、是非ご一読下さい。

Gallery



ヘリコプターと戦車による戦果拡張



最新鋭10式戦車による昼間射撃



ヘリコプターからの空挺降下



最新鋭10式戦車による夜間射撃



陸上自衛隊による国内最大規模の実弾射撃訓練「富士総合火力演習」が8月24日、静岡県東富士演習場で約2万9千人の観衆を集めて一般公開されました。

今回の演習で使われた実弾は約44トン。敵に占領された離島を奪回するとの想定で陸・海・空自衛隊が統合作戦が遂行しました。

富士総合火力演習は毎年8月下旬に行われ、一部一般公開されています。

# 災害に備える……九月一日、防災の日を迎えて

## 防災の日、防災週間

自衛隊は、自衛隊法に基づいて様々な活動をおこなっており、災害に対する行動としては、大きく「災害派遣」「地震防災派遣」「原子力災害派遣」の3種類を定めています。これを基に自衛隊は、自然災害をはじめとする各種災害の発生時に、地方公共団体などと連携・協力し、国内のどの地域においても、被災者や遭難した船舶・航空機の捜索・救助、水防、医療、防疫、給水、人員の輸送など様々な活動を行っています。

9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二十日に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあります。昭和34年9月26日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害を被ったことが契機となつて、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、昭和35年6月11日の閣議にて9月1日が防災の日とされました。

また、防災の日を含む一週間を防災週間と定め、各関係機関が緊密な協力関係のもとに、防災思想普及のための行事や訓練などを行っています。

## ビッグレスキューかながわ

8月31日、小田原市の酒匂川スポーツ広場を中央会場とし、その周辺を含む約20か所においてビッグレスキューかながわ（平成26年度神奈川県・小田原市合同総合防災訓練）が行われました。この訓練は、神奈川県と小田原市の主催により、大規模災害発生時の初動対応における救急医療等を主体として、防災関係機関、医療機関、自主防災組織などが参加する広域的な総合防災訓練です。

## Gallery



現地救護所において通訳支援する当局職員



中央会場(酒匂川スポーツ広場)



現地救護所において通訳支援する当局職員



救出された負傷者を現地救護所へ運ぶ陸・海自衛隊員

訓練は、県西部を震源とするマグニチュード7の地震を想定したもので、防衛省・自衛隊からは、第31普通科連隊、第1高射特科大隊、第4施設群、横須賀地方総監部、横須賀衛生隊、中部航空方面隊司令部等に加え南関東防衛局が参加しました。

当日は県警、地元病院、学校、ボランティア団体などが参加し、来場者を合わせ約7千人が参加しました。訓練は、被災地内に派遣し、医師会等の医療関係機関と連携して負傷者の救護活動を行い、南関東防衛局は現地救護所において在日米軍の医療チームと負傷者等の通訳支援を実施しました。

### 第35回九都県市合同防災訓練



安倍総理大臣による閉会式の挨拶

## Gallery



在日米陸軍テント内において通訳支援する職員



倒壊家屋建物から被災者を救出する座間市消防本部



在日米陸軍の救援物資受渡し時に通訳支援する職員



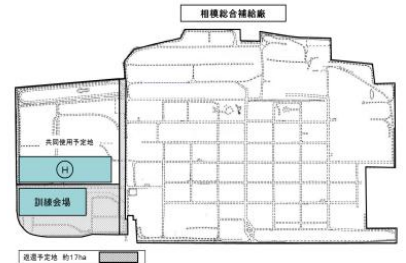
負傷者を現地救護所へ運ぶ在日米陸軍部隊



閉会式に参列する訓練参加者



各消防部隊による被災高層建物に対する一斉放水



9月1日、相模原市中央区の在日米陸軍相模総合補給廠を中央会場に第35回九都県市合同防災訓練が行われ、市民ら約1万人が参加しました。

この訓練は、大規模災害発生時における迅速かつ円滑な災害応急対策の実施等を目的として、市民、警察、消防などの防災関係機関等のほか、九都県市及び政府とも連携・協力する総合的な訓練です。

訓練は、相模原市直下を震源域とするマグニチュード7クラス、最大震度6強の地震を想定したもので、

当日は安倍総理大臣、防災担当大臣、総務大臣、防衛大臣のほか、多くの政府関係者等が訓練を視察しました。

防衛省・自衛隊からは、第1師団司令部、第31普通科連隊、第4施設群、中央即応集団司令部、横須賀地方総監部、航空総隊司令部等に加え、南関東防衛局が参加しました。在日米軍からはキャンプ座間や相模総合補給廠の米陸軍の医療部隊や消防本部等が参加し、救出救助・消火訓練、救援物資及び医療救護訓練を行い、南関東防

衛局は在日米陸軍の通訳支援を実施しました。

訓練の主会場に使用された相模総合補給廠は、災害時において都道府県などの関係者が救助、医療サービス、緊急輸送等の活動を実施するため、又は災害に備えた防災訓練等を実施するために立ちることができるよう相模原市と在日米陸軍基地管理本部との間で現地実施協定を締結しており、今回の訓練は協定で許可された共同使用予定地及び返還予定地の一部で行われました。

(※)九都県市…東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、横浜市、川崎市、相模原市、さいたま市、千葉県

## 米海兵隊による MV22オスプレイ離発着訓練

米海兵隊のMV-22オスプレイが山梨県に所在する北富士演習及び静岡県に所在する東富士演習場で離発着訓練を行いました。

沖縄県普天間飛行場に配備されているオスプレイ4機が8月18日に厚木飛行場に飛来し、北富士演習場において同月20・21日、また東富士演習場において同月20日にそれぞれ離発着訓練を行いました。なお、19日に予定されていた訓練は視界不良のため中止されました。

これに先立つ7月15日にもオスプレイ1機が人員輸送のため厚木飛行場に立ち寄り、米軍キャンプ富士に飛来しています。

当局管内へのMV-22オスプレイの飛来及び訓練の実施はこれが初めてのことです。



写真：7月、キャンプ富士に飛来したオスプレイ

## 池子住宅地区本設小学校開校式

8月26日、グレンスタ米海軍横須賀基地司令官主催により、平井逗子市長、丸井南関東防衛局長をはじめとする来賓が見守る中、池子住宅地区内に建設



された池子本設小学校の開校式が行われました。式典は司令官の挨拶で始まり、来賓挨拶、テープカットに引き続き新校舎案内ツアーが行われました。

長らく仮設小学校に通っていた子供たちが、自然環境に恵まれた新しい校舎で学べるようになり、司令官はじめ米軍教育関係者から日本政府に対し感謝の意と心からの喜び

の言葉が述べられました。ツアーでは、子供たちが新しい教室で元気に学ぶ様子や日本文化を学べるような教室などを見ることができました。



写真上：小学校外観  
写真左：テープカットの様子

## 米海軍厚木基地司令官の交代

7月24日、米海軍厚木航空施設（厚木基地）司令官の交代式が行われました。これまで司令官を務めてきたスティーン・J・ウィーマン大佐に代わり新しく司令官となったのはジョン・F・ブッシー大佐です。



ブッシー新司令官（右）と  
ウィーマン旧司令官（左）

ブッシー新司令官は米アイオワ州の出身で、アイオワ州立大学を卒業し海軍に仕官しました。対潜ヘリコプター部隊にて多くの洋上勤務を行った後、統合参謀本部、海軍計



南関東防衛局を訪れた  
ブッシー新司令官と丸井局長

画・政策・監視・統合本部においても勤務した経験を持ちます。

ブッシー司令官は2900時間以上の飛行時間を持つベテランパイロットであり、数々の章を受章しています。厚木基地は三度目の赴任となります。

## キャンプ富士新司令官の着任

7月3日、静岡県御殿場市の米海兵隊キャンプ富士で、新司令官ジャームズ・R・フルウッド大佐の着任式が行われました。着任の挨拶でフルウッド司令官は、「これまでに築かれてきた地元との良好な関係を維持するとともに、より一層強固なものにするよう努力していきたい。」と述べました。

フルウッド大佐はノースカロライナ州の出身で、歩兵将校としてイラクやアフガニスタンの派遣任務にも従事しています。オハイオ州にある海軍士官学校の幹部養成クラスで学んだ後、この度キャンプ富士司令官として赴任しました。

写真上：キャンプ富士での新司令官着任式  
写真下：丸井局長との意見交換



申請手続きについて細部を説明しました。施工能力評価型は、技術的工夫の余地の少ない工事で予定価格が原則3億円未満に適用するもので、評価項目が簡素化されているため応募企業の資料作成の負担が軽減されると説明しました。

これに先立つ6月10日には神奈川県建設業協会の主催により神奈川建設会館で開催した入札・契約方針等に関する説明会に関東地方整備局と共に参加して、南関東防衛局発注工事における施工能力評価型の試行について説明しています。今後とも関係団体等からご要望がありましたら、積極的に説明会などに参加させて頂き、地元の皆様のお役に立ちたいと考えております。

## 優秀工事等顕彰状の授与

南関東防衛局では、入札参加者の受注意欲を高め、かつ品質確保を図るなど、施設取得の円滑な推進に資することを目的として、平成21年度から工事目的物の出来形及び品質が優れている、また、業務の実施状況及び成果物が優れているものを選定し、他の模範とするにふさわしい工事及び業務を顕彰しています。

平成26年7月1日、鶴田調達部長から次の工事を優秀と認め、請負者に顕彰状を贈呈しました。

### ◆優秀工事

- ・座間米軍(H24)低層住宅(0001)新設建築工事  
【日本国土開発(株)】
- ・船越(23)試験棟新設建築その他工事  
【前田建設工業(株)】
- ・防大(24)グランド整備土木工事  
【長谷川体育施設(株)】
- ・池子共同使用関連(24)保安柵整備工事  
【(株)神奈川フェンス土木】
- ・座間米軍(H24)低層住宅(0001)新設電気その他工事  
【浅海電気(株)】
- ・座間米軍(H24)低層住宅(0001)新設機械工事  
【日本装芸(株)】
- ・厚木(23)航空機整備場新設機械工事  
【(株)精研】



前列右から、鶴田調達部長、日本国土開発(株)、前田建設工業(株)、長谷川体育施設(株)、神奈川フェンス土木、浅海電気(株)、日本装芸(株)、(株)精研、平川調達部次長

## 小山町「生涯学習センター」改修工事

民生安定施設に係る助成（補助金）を活用して平成25年8月から改修工事が進められていた「小山町生涯学習センター（文化会館棟及び体育館棟）」が平成26年6月に竣工し、同年7月21日、地元関係者等が多数出席する中リニューアル記念式典が行われました。

本生涯学習センターは、当省補助金を活用し、平成3年度に文化会館棟、平成7年度に体育館棟が整備され、以後約20年にわたり小山町民の教養の向上、健康の増進等に専し、地域交流などの活動拠点として利用されてきましたが、施設の老朽化が進み、さらに、近年の施設利用形態の変化やバリアフリー化に対応し、地元住民のニーズに応えるべく改修工事を実施したものであり、今後、より一層の施設利用の促進が図られることが期待されます。



記念式典：丸井局長による祝辞 センターの文化会館棟内金太郎ホール

## 横須賀市・横須賀商工会議所が主催する契約説明会に参加

防衛施設関連工事などの受注拡大に関する地元企業向け説明会が、横須賀市と横須賀商工会議所の主催により平成26年7月8日に横須賀商工会議所で開催されました。説明者として南関東防衛局をはじめ海上自衛隊横須賀総監部、米海軍横須賀基地が招かれました。南関東防衛局からは調達計画課山川課長と契約課畑瀬補佐が参加し、説明及び質疑応答を行いました。

山川課長は南関東防衛局が発注する建設工事の入札・契約方式について、平成19年度から価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価入札方式が導入されていることに加え、平成25年9月から試行している総合評価方式における施工能力評価型について紹介しました。また、南関東防衛局ホームページに7月1日に更新掲載している平成26年度発注予定工事について説明し、是非多くの企業の皆様が入札に参加して頂けることに期待していますと挨拶しました。

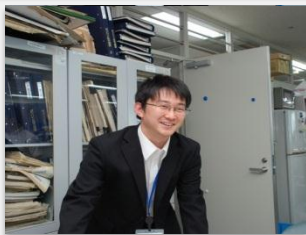
続いて、畑瀬課長補佐からは南関東防衛局が発注する施工能力評価型入札方式及び建設工事の競争参加資格審査の

(※左上に続く)

南関東防衛局  
ルーキー紹介 その1

今年の春から南関東防衛局の一員となった11名のルーキー達。早くもそれぞれの職場で活躍する彼らを紹介いたします。

企画部 住宅防音第1課



加藤 悠一 *Kato Yuichi*

出身地：新潟県長岡市  
長所・短所：向上心をもって取り組むところ。ケアレスミスをしがち。  
趣味等：読書  
今後の抱負：まだまだわからない事が多いですが、業務に必要な知識を着実に身につけながら、日々の業務に熱心に取り組みたいです

企画部 地方調整課



村田 光逢 *Murata Mitsuharu*

出身地：東京都日野市  
長所・短所：明るく前向きに物事に取り組めることです。しかし、ずぼらな一面があるのでこれから改善していきたいです。  
趣味等：休日には大学時代に始めたバイオリンを弾いています。  
今後の抱負：入省したばかりでまだ右も左もわかりませんが、早く仕事に慣れ、防衛省の職員として日本の平和に貢献できるよう頑張りたいです。

管理部 施設取得課



橋本 和樹 *Hashimoto Kazuki*

出身地：埼玉県入間市  
長所・短所：体力があるところ。せっかちなところ。  
趣味等：プロ野球観戦、釣り(ブラックバス)  
今後の抱負：現在の職場の業務をい早く覚えるとともに防衛行政に携わる者としての自覚を高めていきたいです。

企画部 住宅防音第2課



佐々木 光 *Sasaki Hikaru*

出身地：千葉県  
長所・短所：一度決めたことは、徹底的に研究してやり遂げる。一つのことに没頭すること、周りが見えなくなる。一つのこと。一つのことに没頭すること、周りが見えなくなる。一つのこと。  
趣味等：読書、映画鑑賞、ランニング  
今後の抱負：どんな仕事であっても、こだわりを持って全力でやっていきたいです

第24回防衛問題セミナー

イベント情報

南関東防衛局によるイベントのお知らせです。

10月2日(木)、浜松市中区のプレスタワー17階静岡新聞ホールにて、18時より「第24回防衛問題セミナー」を開催します。

講師は、地元航空自衛隊浜松基地 第1航空団副司令の池田五十二1等空佐と北朝鮮問題に詳しい静岡県立大学の伊豆見元教授です。

防衛問題、安全保障に関心があるものの詳しい話を聞く機会がないという方、あるいは自衛隊について知りたいという方は、是非足を運んでみてください。

入場は無料ですが事前申込が必要です。(先着230名)

当局ホームページ (<http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>)

お問合せ先：南関東防衛局 企画部地方調整課

電話：045-211-7102



参加申込フォーム



航空自衛隊  
第1航空団副司令  
池田五十二1等空佐

講演1  
強い戦士を作るために  
～航空自衛隊の教育  
現場における奮闘～



静岡県立大学  
伊豆見元教授

講演2  
最近の北朝鮮情勢と日本

南関東防衛局広報紙「南関東防衛」平成26年秋号(第5号)平成26年9月18日発行

年4回発行 編集/発行 南関東防衛局 〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第2合同庁舎内  
(お問い合わせ)045-211-7129